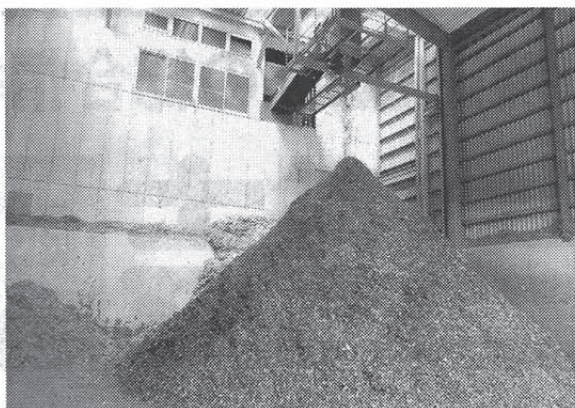


RPF製造など多様な再生利用

大剛 燃料中心に顧客ニーズ対応

木くずチップ化やRPF製造など多様な再生利用システムを展開

する安田産業グループの大剛(京都府八幡市、安田優希社長、☎07



需要家に出荷される木質チップ

5・98

3・82

80)は、

燃料用チップを中心
に安定的な集荷体制で顧客ニーズに対応する。

同社では、廃木材再資源化システ

ムを構築。製紙用(処理能力113・6ト)と燃料用(同19・2ト)の2ライン体制でチップを生産、出荷する。

出荷量は、月平均で燃料用が約1200-1300ト、製紙用は同約50ト。柱材は製紙用切削チップ、材木は燃料用チップとし、ともに提携先の大手製紙会社へ納入している。

解体需要が増えつつあるものの、本格的な増加まで至っていない上、同業者が多い京都府内で原料確保が難し

い中、既存顧客の確保のほか、新規顧客の開拓の強化を図り一定量を集荷する。

同社は3300平方メートルの受入施設を完備。また、受入段階から厳しくチェックするとともに、処理工程時、水洗機で木片を洗浄。原料として使用できない異物を除去するなど、不純物を徹底して取り除くことで高品質の製品チップを製造する。

また、RPF事業では、昨年春に蛍光X線装置を導入。品質を維

持した製品を、八幡本社工場(京都府八幡市)・長岡工場(京都府長岡市)の2工場合計で月平均約1000トを大手製紙会社に安定的に出荷する。